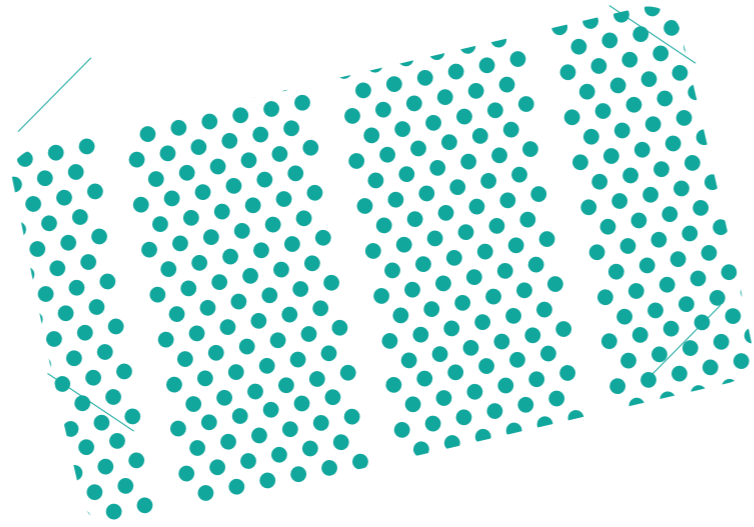




Why Sus-edu

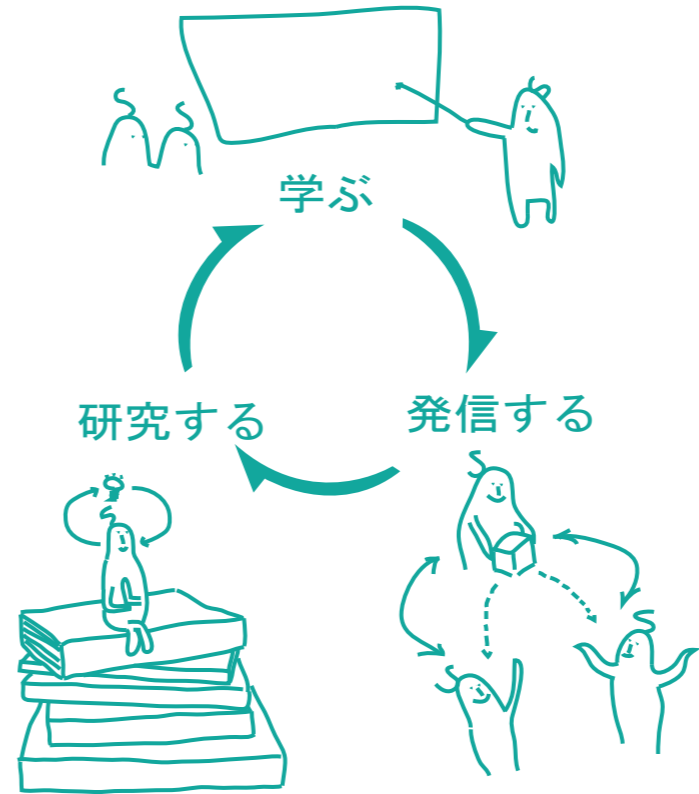
サステナビリティ（持続可能性）は、政治・経済・社会・自然環境など様々な領域を横断する共通価値になりえることから、環境問題や貧困、平和問題などの要素が複雑に絡み合った問題の解決の糸口になりうるとされています。

そこでサステナビリティ教育は、現代ますます深刻化するそうした問題の解決に貢献するために、教える側と教わる側という二者対立にとらわれた従来の『教育』を超えた、参加者が共に育むという意味での「共育」という側面から社会全体のサステナビリティを伸ばしていくことであると私たちは考えています。



What sus-edu do ?

Sus-edu の活動について



- 例えば
 - 五月祭では“私の働き方”（シンポジウム）を開催
- 例えば
 - 4月にガザ問題を扱ったドキュメンタリーを題材に、ジャーナリストをお招きして勉強会を開催
- 例えば
 - 10月に Sweden で行われる ESD09 への学生派遣



さらに勉強会をしたり、ワークショップを
つくる仲間を探しています。

Sustainability の考え方と一致した“学び方”が思えます。
トピック的な教え方や、プロジェクト型で学ぶ方法など
その中で、Sustainability に向けた“学び方”を考えるのが Sus-edu です。
学びは結果だけでなく過程の中にもあります。
みなさんと一緒に充実した学びの過程を作りたいです。
学びの場を一緒に作りましょう！

【SUS+ の紹介】
東京大学学生団体 SUS+ (AGS-UTSC) は Sus-edu の母団体です。
<http://ags-utsc.org>
Sus-edu 代表 柳澤 龍
<MTG>毎週月曜日 18:00
工学部 3号館 3回ラウンジ
<Web+ >メルマガ登録 ><http://sus-edu.ags-utsc.org>

サステナビリティ教育の模索
サステナビリティ教育の現状、形を学び、その可能性を探求す
る。特に社会における大学の役割にも目を向けること。
『共育』空間の実現
“教える側（教師）”と“教わる側（生徒）”という関係をリセット
することによって生まれる主体的・自主的な“学び合い”の場を
体現すること。
『共働』の実現
共育の延長として大学内にとどまらず、企業、NPO、地域コミュ
ニティーなど、社会全体と共に活動するさまざまな分野間の対話、
学びを促進すること。



Sus-edu が取り組んでいるテーマ